

## 「その他来場手段」の分析結果について

民間駐車場利用人数や送迎人数など、計画段階で考慮されていなかった手段来場者を踏まえ、鉄道系、自動車、団体バスの手段分担率を見直した結果を下表に示す。

表 分担率の検証（実績平均）

	計画	実績	実績分担率 (全体)	実績分担率 (除、その他)	備考欄
鉄道系	59%	59,010	49.5%	50.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道：49,127人</li> <li>・駅シャトル：6,537人</li> <li>・路線型直行バス：2,455人</li> <li>←長久手町バス：218人</li> <li>←瀬戸回遊バス：673人</li> </ul>
道路系	41%	57,727	48.5%	49.5%	
(自動車)	26%	39,898	33.5%	34.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P&amp;R利用者数：24,006人</li> <li>←民間駐車場：9,104人</li> <li>←タクシー(タクシー利用)：1,461人</li> <li>←送迎：4,575人</li> <li>←その他駐車場：752人</li> </ul>
(団体バス)	15%	17,829	15.0%	15.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体バス：17,829人</li> </ul>
その他 (徒歩・二輪車)	—	2,450	2.0%	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩：1,282人</li> <li>・二輪車：1,168人</li> </ul>
合計	100%	119,187	100%	100%	

「その他来場手段」を考慮した機関分担は、下記の通りとなる。

鉄道系：道路系：その他（徒歩・二輪車）＝49.5%：48.5%：2.0%

鉄道系と道路系の分担割合が5：5となり、政策目標であった『鉄道系：道路系＝6：4』には及ばなかったものの、自動車依存率が高い中部地域において、この結果を残せたことは、協会が実施した公共交通機関利用促進や平準化などの広報や期間中の交通情報提供が、愛知県公安委員会による3km圏内交通規制及び愛知県が中心となって実施した交通総量抑制と相まって、実効性があったと言える。